

大隅河川鹿屋出張所らが現場見学会

楽しく橋の仕組み学ぶ

九州地方整備局大隅河川国道事務所鹿屋出張所(宮内信所長)とオリエンタル白石鹿屋営業所(児島剛所長)、山之口建設(山之口稔社長)は12日、鹿屋市吾平町の中福良橋架設現場で鶴峰小学校の児童を招き見学会を実施。橋の仕組みや公共事業の大切さを学ぶとともに、建設業が果たす役割などを楽しく学んだ。見学会には児童29人と関係者約50人が参加。

最初に、宮内所長が「建設機械など実際に触れ、楽しみながら少しでも川の仕組みなど学んでほしい」と挨拶した。

続いて、取付道路と始良川鵜原地区河道掘削を担当する山之口建設の鷲東洋一(現場代理人)と駒走政英(監理技術者)が工事の内容を解説。また、中福良橋架設を担当するオリエンタル白石の佐藤誠二(監理技術者)から橋の種類や構造など分かりやすく



橋の仕組みや役割などについて説明を受ける児童ら＝鹿屋市の現地

説明を受けた。建機の試乗体験では、担当者のサポートを受けながら、アームを動かしたり移動や転回などを、初めての経験を楽しんだ。「機会があればまた体験したい」「橋が完成するのが楽しみ」などと話した。

このほか、ドローンによる記念撮影なども行われた。なお、子供たちが